

栗っこズッキーニの生産振興と認知度向上に向けて [重点活動]

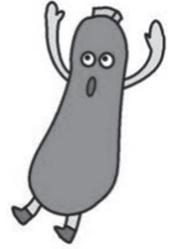
対象 J A新みやぎ栗っこズッキーニ部会

ズッキーニの生産技術向上、良品出荷を図って販売額を向上すべく、栽培暦ポスターを作成し、部会講習会や新規栽培者への指導を行った。品質や出荷規格の確認がしやすくなったと、好評価を得ている。

また、TV等マスコミを活用した産地PR、食品メーカーと連携したレシピチラシの作成のほか、地元での消費拡大を目的にこれまで使用してきたキャラクター名の公募を行った。キャラクター名は全国から360通を超える応募があり、選考の結果、栗っこズッキーニキャラクター「クリッキーニョ」と命名された。今後ともクリッキーニョを活用しながら、産地PRを図っていく。



選考会の様子



クリッキーニョ

シャインマスカットの栽培技術向上を目指して [重点活動]

対象 栗原市内シャインマスカット生産者等

管内では、ぶどう「シャインマスカット」の生産が始まっており、意欲的な生産者を中心に栽培研究会が立ち上がるなど、新規園芸品目として期待されている。そこで、シャインマスカット生産者や新規栽培意向者に対する研修会を開催し、生産振興に取り組んでいる。

研修会は、栽培上特に重要な作業のタイミングに合わせ、管内でいち早く栽培に取り組んできた生産者を講師に作業実演を交えて開催した。参加者の中には研修会後に講師のほ場を自主的に見学する者もあり、栽培意欲の高まりがうかがえた。



講師による花穂整形の作業実演

優良水稻種子生産に向けて

対象 一迫水稻採種組合、金成末野水稻採種組合

栗原市内の2つの水稻採種組合を対象に、普及センターでは令和2年4月1日に施行された主要農作物種子条例に基づき審査業務を実施するとともに、現地巡回や研修会開催を関係機関と連携して行うなど、優良種子の安定供給が図られるよう支援した。

令和2年は、育苗期前半の低温、出穂前の低温少照、出穂後の高温登熟など気象変動が大きく、例年以上にきめ細やかな栽培管理が必要な状況下で、適切なほ場審査、生産物審査を行い、特にいもち病や採種周辺ほ場でのばか苗病の発生状況などに留意して指導・支援を行った結果、ひとめばれ、ササニシキ、つや姫の主要品種において契約数量を確保することができた。



種子生産ほ場の確認

促成いちご育苗環境の改善支援 [重点活動]

対象 いちご育苗研究会

登米管内では約20人が促成いちご栽培に取り組んでおり、一部生産者においては、育苗期における炭そ病の発生が問題になっている。炭そ病は生産ほ場からの持ち込みや、灌水が原因で蔓延してしまうため、この対策として、育苗専用施設や底面給水システム導入等の育苗環境改善に取り組んだ。

令和元年度は、育苗に課題を抱えるいちご育苗研究会を組織化し、生産者ごとにこれまでの育苗管理から発生要因を分析した上で、育苗ほと本ほの完全分離や底面給水マットの提案、補助事業の活用支援を行った。

令和2年度には、育苗環境の改善が図られ、炭そ病の発生が大幅に減少するなどの成果があがっている。



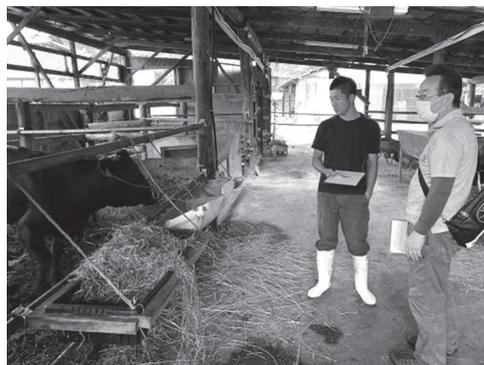
いちご底面給水の様子

登米農業マイスターによる新規就農者への個別技術支援 [重点活動]

対象 認定新規就農者, 就農1～5年目の新規就農者

登米地域では、新規就農者の早期生産技術習得や経営安定化等を目的に、みやぎ食と農の県民条例推進圏域重点プロジェクトを活用した「登米農業マイスター制度」を平成28年度から実施している。令和2年度は野菜部門、果樹部門、繁殖牛部門で計3人が活用し、栽培・飼養管理のポイントについてそれぞれ部会から選出されたマイスターから個別技術指導を受けた。

登米農業マイスター制度は令和2年度で終了となるが、関係機関との意見交換を重ね、令和3年度以降は登米市が当制度の内容を引き継ぐ形で同様の事業を整備することとなった。今後も関係機関で連携し新規就農者を支援していく。



繁殖牛マイスターによる飼養管理の個別技術指導

農用地の利用集積・集約化の推進 [重点活動]

対象 県営ほ場整備採択地区, 農地中間管理事業利用地区

管内の大区画整備率（50a区画以上）は34%にとどまっているが、将来を見据え1ha区画以上のほ場整備に向けた動きが各地で生じており、地域の担い手育成や高収益作物の作付計画などの話し合いが進められている。

先行している登米市南方町の沼崎・大平地区では、令和3年度の採択に向け、担い手への集積・集約の検討や加工用ばれいしょ、ゆきなな作付可能性などについて検討している。

また、管内で加工用ばれいしょに取り組んでいる生産者の作業見学や成績検討会等への参加を促し、導入に向けた課題の抽出や解決に向けた話し合いを進めている。



加工用ばれいしょ成績検討会

都市との交流促進による中山間地域の活性化 [重点活動]

対象 津山町沢田地区農業者等

登米市津山町沢田地区では、毎年都市住民の援農ボランティアと一緒に、特産品のとうもろこし「味来」の苗定植及び収穫作業を実施していたが、今年は新型コロナウイルスの影響で中止となった。当地区では「とうもろこし」に加え新たな品目として「わらび」の導入を検討している。そこで、東和町道の駅出荷組合で開始しているわらび栽培を参考に栽培のポイントをまとめ、試験栽培を支援した。

また、今後の地域づくりを話し合うワークショップで、中山間活性化の先進事例調査として栗原市一迫の「土里夢」を視察した。



ワークショップ

生花店と連携した花きの消費拡大支援

対象 管内花き生産農家

新型コロナウイルスの影響により花きの消費低迷が続いていることから、市内生花店と連携した商品づくりを新たに企画・提案し、地元産花きの消費拡大及び周知のため、関係職員向けに販売した。

令和2年11月20日に「いい夫婦の日」向けにばらのブーケとシクラメンやアッサムニオイザクラの鉢物を、令和3年2月10日に「フラワーバレンタイン」としてストック及びバラの花束とプリムラの鉢物を、生花店のプロの技で綺麗にアレンジした商品を予約販売し、多くの方々にご購入いただきました。



登米市役所でのバレンタイン向け販売会

農業士会の活動

対象 登米市農業士会

登米市農業士会は、指導農業士8人、青年農業士11人で構成され、例年、様々な活動を行っている。

令和2年度は、新型コロナウイルスの終息が見通せない中、事業を絞って活動した。

例年6月に開催される県の式典が中止になったことから7月末に独自に感謝状、認定証の交付式を行った。

また、9月には農大生を交えた会員の農業経営を学ぶ経営向上研修会、2月には地域農業を考える地域農業振興懇談会を開催した。

さらに、新規就農者をマンツーマンで指導するなど、後継者育成や資質向上に尽力いただいた。

実施できなかった事業や農業士同士の十分な情報交換が図れなかったこともあり、悔いが残る一年であった。



会員の農業経営を聞く経営向上研修会